

『もしも虫と話せたら 昆虫が教えてくれた生きづらい世の中を生き抜く自然の鉄則15』

ペズル/文 じゅえき太郎/絵 須田 研司/監修
プレジデント社

職場の人間関係に悩む青年・太郎くんは、いろんな虫達から、生き抜くために必要な厳しい自然の法則を教わります。クロオオアリからは共生の必要性を、オオスズメバチからは常識がいかに偏見に満ちているかを。

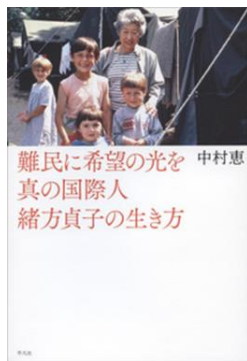
生物として人間より5億年も先輩である虫達が、生死をかけて培ってきた生存戦略。私たち現代人の悩み、彼らの生き様が涙あり笑いありで答えてくれます。



『難民に希望の光を 真の国際人 緒方貞子の生き方』

中村 恵/著
平凡社

この本は、緒方さんと国連難民高等弁務官事務所で共に働いた中村恵さんが執筆しています。長く緒方さんと接してきた方だからこそ書ける、緒方さんの人柄や言葉、行動が丁寧にわかりやすくまとめられています。「緒方といえば現場主義」と言われますが、具体的な政策を柔軟に考え、国際社会を動かした緒方さんの姿勢には心動かされます。



『おとな六法』

岡野 武志・アトム法律事務所/著
クロスメディア・パブリッシング

「スマホを勝手に充電したらどうなる?」「居眠りしている生徒をたたき起こす教師は罪になる?」などの身近な疑問を、弁護士が会話形式で面白く解説しています。読むともっと深く法律を知りたくなるはずです。

無意識にやりがちな行動は、法に触れるのでしょうか? あなたのすぐ近くに「法」はありますよ。

図書館おすすめブックリスト

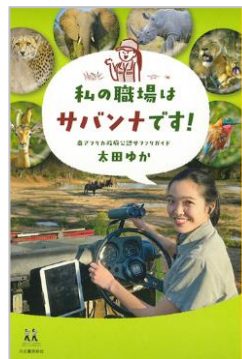
2024年2月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで ハートフル充電!!

No.24 中高生むけ



『私の職場はサバンナです!』

太田 ゆか/著
河出書房新社

南アフリカ政府公認のサファリガイドの著者が、「大好きな動物を守りたい」という夢のために奮闘する姿が描かれています。サファリガイドの仕事は幅広く、案内だけではなく、密猟者から守るためにサイのツノを切る作業をしたり、動物の個体を判別するためのデータを集めたりとさまざま。

人と自然の共生について考えるきっかけになるノンフィクションです。

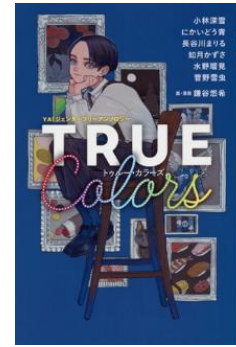


『杉森くんを殺すには』

長谷川 まりる/著
くもん出版

高校1年生のヒロは幼なじみの杉森くんを殺すことを決意する。兄のミトから助言を受け、ヒロはやり残した事を端からやり、殺さなければならない理由を書き出していく。それにより、ヒロと杉森くんの関係が明らかになっていく。

思春期ならではの不安定な情動とともに、「喪失」というつらい経験をしたヒロを周囲の人たちが支えていく様子も描かれている。



『TRUE Colors YA! ジェンダーフリーアンソロジー』

小林 深雪・にかいどう 青・長谷川 まりる・如月 かずさ・水野 瑠見・菅野 雪虫/著 鎌谷 悠希/画 漫画 講談社

女子だから、男子だから。そんな「ジェンダー」による役割や価値観から、これからはもっと自由になっていく。「今」を生きる児童文学作家が、中学生の心と身体を取り巻くいろいろなことを、瑞々しく描き出します。

恋愛、家族、将来、自分…ジェンダーだけでなく、考え方や生き方ももっと自由に。ひとを尊重し、自分らしさを大切にしたいくなるアンソロジーです。



『きみの話を聞かせてくれよ』

村上 雅都/作
フレーベル館

クラスになじめなかったり、自分を理解してもらえないと感じたり、大切な友達とすれ違ってしまったりと、もやもやした悩みを抱える中学生たち。そんな彼らに、どこか飄々とした黒野くんが「聞かせてくれよ」とそっと寄り添ってくれます。そんな彼の正体は？

傷つきやすいけれど、どこかたくましい『ぼくら』の物語が、軽快で爽やかです。



『アンナの戦争 キンダートランスポートの少女の物語』

ヘレン・ピーターズ/作 尾崎 愛子/訳
偕成社

第二次世界大戦中、ユダヤ人の少女アンナは、迫害から逃れるために家族と離れてイギリスで里親家族と暮らすことになる。両親と会えない寂しさを胸にしまい、与えられた機会を生かそうと懸命に過ごす中、アンナは負傷した兵士と出会う。助けるうちに彼の嘘に気づいてしまい…。

アンナが知恵と勇気でピンチを乗り越える姿にハラハラドキドキが止まらない、史実をもとにしたフィクションです。



『つる子さんからの奨学金』

まはら 三桃/作
偕成社

中学2年生のわかばと従兄弟の樹は、性差や時代の価値観で進学に苦労した曾祖母・つる子から、「今よりワンランク上の高校に合格したら奨学金を出す」という提案を受ける。やる気になったわかばだが、親からのプレッシャーや社会への違和感を感じるようになり…。

主人公たちは、受験を通じて、これまであやふやだった「自分らしい未来」を考えていくようになります。



『人魚と過ごした夏』

蓮見 恭子/著
光文社

アーティスティックスイミングの選手としてオリンピックを目指してきた茜と水葉。けれど怪我で大会を欠場し、茜の競技への気持ちが揺らぎ始める。茜はクラスの泳げない由愛に水泳を教えつつ、2人でYouTubeを撮ることに。選手として復活してほしい水葉は2人に嫉妬する。

特別な道を目指す難しさ、その道を絶たれたときどうするか。周囲の思惑や当人の葛藤が丁寧に描かれています。

